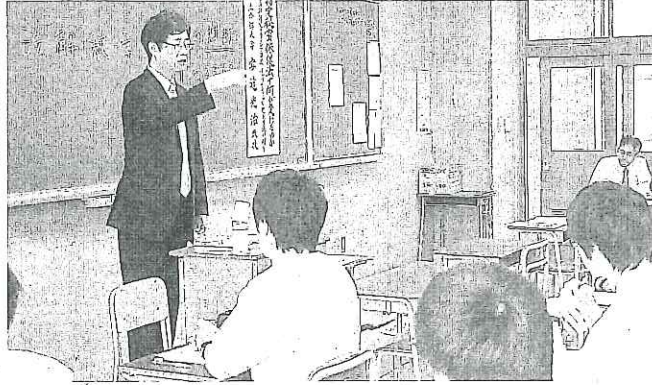


「最先端の知」高校生学ぶ 土佐塾高で教授の出張講義



特定秘密保護法を説明する安達光治・立命館大学教授。高知市北中山の土佐塾高校

高校生に「大学の最先端の知」に触れてもらうと21日、高知市北中山の土佐塾高校で全国15大学の教授らの出張講義「ワ

ンデーセミナー2014」があった。生徒や保護者ら約600人が各分野の専門家の講義に耳を傾けた。

筑波大学の中井直正教授(60)は「電波天文学Ⅱ」の講義テーマは「銀河にひそむ巨大ブラックホール」。ブラックホールが電波望遠鏡で発見された経緯や、M106星雲の中心部で見つかったブラックホールの質量は、太陽の3900万倍あることが推測されることなどを説明した。

また、立命館大学の安達光治教授(49)は「刑法Ⅱ」は、「特定秘密保護法で何が変わるのか」について話した。「特定秘密に触れた裁判の場合、その秘密が証拠として出されぬまま判決が下されるおそれがある」と指摘した。

講義を聴いた小川彩菜さん(3年)は「ブラックホールを解析するためには、3次元を超えた多次元想定が必要、という話は面白かった。宇宙をもっと知りたい」と話した。

受験勉強にとどまらない学問の素晴らしさや社会問題への関心を高めたい、と同校が毎年実施しており、今年で13回目。

(堀内要明)